

## 住民参加型交通安全対策の効果と評価に関する事例的考察

大阪市立大学大学院工学研究科 学生員 尾崎 龍樹  
 大阪市立大学大学院工学研究科 正会員 日野 泰雄  
 大阪市立大学大学院工学研究科 正会員 吉田 長裕

## 1. はじめに

交通安全のための社会実験の試みに関する一連の研究成果<sup>1),2)</sup>を踏まえ、本研究では、兵庫県加古川市西条山手地区で実施した「住民参加による交通安全対策」とその活動の効果及び今後の課題について考察することにした。これらの成果は、今後の住民参加型安全対策立案とそれに関連する種々の交通安全活動の推進に寄与するものと期待されよう。

## 2. 対象箇所の特徴と対策事例

調査対象箇所は、見通しの悪い交差点であり(写真-1)、特に歩行者等の横断交通の危険性が示唆されていたため、交差点四隅のカラー化や区画線による交差点のコンパクト化(若干の狭さくを含む)、デリニエータや駐車禁止標識、街路灯の設置、減速マーク等の路面標示等が対策として実施された(写真-2)。



写真-1 対策検討箇所の状況(対策実施前)



写真-2 対策検討箇所での対策実施例

## 3. 対策の効果と課題

## (1) 交通行動からみた対策の評価と課題

カラー舗装を含む交差点のコンパクトによって、優先車両の交差点手前からの減速割合が増加し、交差点直前で急な減速行動が減少している一方、左折車両の歩道部分へのはみ出しが一部見られたことから、本格的な狭さくの導入によるコンパクト化の実施には若干課題が残る結果となった。

以上のことから、各種対策によって交差点そのものの形状が比較的わかりやすくなり、速度の低下等の効果が確認された一方で、見通しの悪さによる交差点境界部(歩車道境界)の分かり難さは依然として残されているようである。そのため、その後、4タイプのデリニエータ類の仮設による比較調査を実施しており、その結果については別途報告したい。

## (2) 住民から見た対策の評価と課題

周辺住民に対する事前・事後のアンケート調査(事前 53 世帯、事後 83 世帯)の結果、実施された対策には9割以上の方が気づき、特にカラー化や路面標示、デリニエータに対する認知程度が高かったものの、対策の効果については、まだ十分とは言えない結果となった(図-1)。このことは、速度はやや低下したものの、依然通過交通に対する危険感が強いことを示しており、今後の継続的活動が必要といえよう。

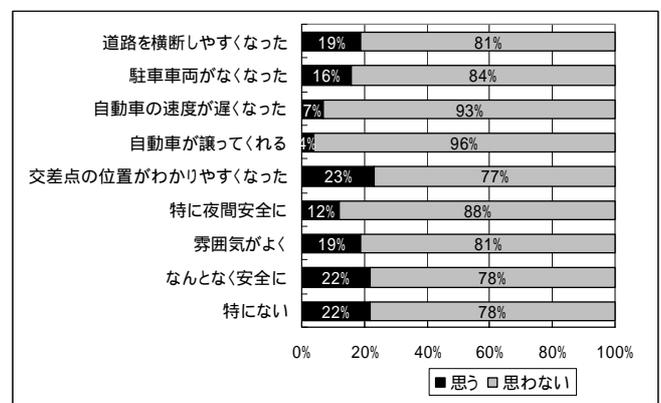


図-1 住民による対策効果の評価

キーワード：交通安全、社会実験、住民参加、効果測定

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138 TEL 06-6605-2731 FAX 06-6605-3077

#### 4. 対策実施プロセスに対する評価と課題

##### (1) 事前・事後アンケート調査に対する評価

事後調査回答者の内、事前調査回答した世帯が3割あった一方で、約半数は調査の実施を認知していなかったものの、両調査回答者の半数近くはアンケート調査が対策実施に有効であったとしている（図-2）。本調査結果が、協議会等における代表者意見の調整において重要であったことから、住民参加型の取り組みには必須の要件であるといえる。

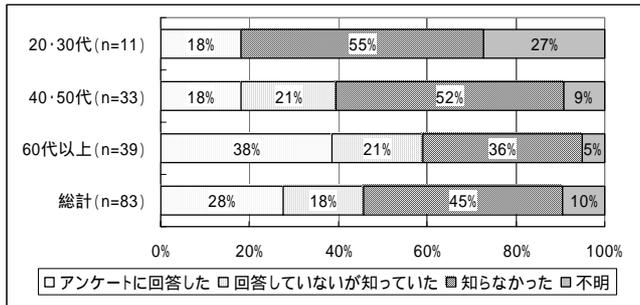


図-2 アンケート調査の認知状況

##### (2) 協議会活動に対する評価

アンケート回答者の内、協議会に参加した人は1割弱と少なかったが、その活動を知っていた世帯は5割近くあり、その内の7割は協議会の活動が有効であったとしていることがわかった（図-3）。また、協議会が有効であったとする理由として、対策の実現のみならず、地域の交通安全を考える機会となったことが高く評価された（図-4）。

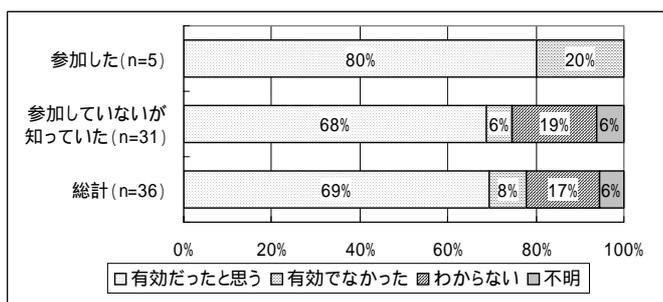


図-3 協議会活動に対する評価

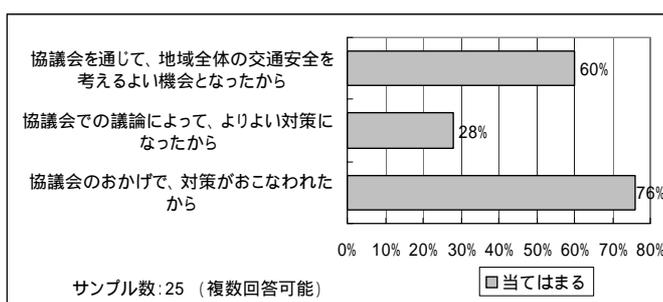


図-4 協議会を有効とする理由

##### (3) 地元中心の交通安全活動の考え方

協議会活動を知っていた世帯の約3割は、今後同様の活動に積極的に参加したいとしていることから、取り組みについての周知を図るための広報のあり方が課題となろう（図-5）。また、今回の活動を契機として、地元での交通安全活動を「すでに始めている」、「これから始めようと思う」といった回答が約6割に達していることから、本取り組みが、地元での交通安全活動の誘発といった波及効果を発揮したと評価されよう（図-6）。

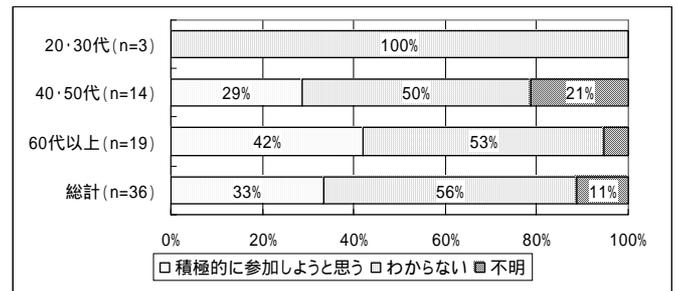


図-5 協議会活動への参加意向

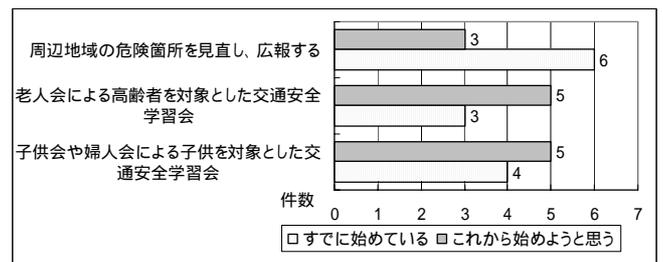


図-6 協議会を契機とした交通安全活動の内容

#### 5. おわりに

本研究における取り組みは、直接的な対策効果のみならず、住民の交通安全意識の向上や地元中心の活動といった波及効果につながることも期待できることから、今後の有効な交通安全施策の1つとして位置づけられよう。

#### 謝辞

本研究は、交通科学研究会（会長：上野精順、事務局：兵庫県警交通研究所）の活動の一環として実施したものであり、関係者に記して感謝の意を表したい。

#### 参考文献

- 1) 日野、上野、沢田、板倉：実験的アプローチによる効果的交通安全対策導入の試み、第20回交通工学研究発表会・論文報告集、pp.165-168, 2000
- 2) 日野、北瀬、上野、西園：交通安全のための社会実験における段階的施策導入の効果と課題、第21回交通工学研究発表会・論文報告集、pp.109-112, 2001